

No.206
2022.11.20

郷土

つながる荘原 笑顔の未来
活かそう 人を 歴史を 資源を

9/26
(月)

今年もたくさんとれたよ いも掘り

自主企画事業



わあ！
おいしそう！



大きい
でしょ!!

こども倶楽部



5月23日に、荘原幼稚園・東部保育園の皆さんと一緒に植えたさつまいもの苗。4ヶ月が経ち、収穫の日を迎えました。園児達も気合十分の表情で畑に来てくれ、こちらもう嬉しくなります。さて掘り始めると…バツヤアマガエル、コガネムシの幼虫が出てきて大騒ぎ！賑やかないも掘りとなりました。よほど美味しかったのか、すこしコガネムシにかじられた跡がありましたが、たくさんのおさつまいもが実っていました。収穫したさつまいもは、10月15日～16日で実施した荘原地区文化祭で焼きいもとして販売し、今年も大好評でした。

10/21
(金)

荘原幼稚園「だんだんの会」

この日、共にさつまいもを育てた荘原幼稚園の皆さんから、「こども倶楽部」にご招待があり、「だんだんの会」を開いていただきました！玄関での丁寧なお出迎えに始まり、「こども倶楽部」へのインタビューコーナー(子どもの頃好きだった遊びや、好きな野菜など)、歌やダンスでたっぷりおもてなしして頂きました。最後には一緒に歌って踊って大盛り上がり♪そして最後には、そら組、にじ組、ほし組からそれぞれにお手紙をちょうだいしました。荘原幼稚園の皆さん、楽しい時間と素敵な手紙をどうもありがとうございました。いただいたお手紙は、荘原コミュニティセンターに掲示してあります。皆さんどうぞ可愛いお手紙を見に来てくださいね。



お手紙
書いたよ!



荘原地区 文化祭

荘原地区文化祭実行委員会

10/15
(土)

10/16
(日)



文化祭のお礼

今年度の文化祭も昨年度と同様コロナの影響により、講演会・演奏会及びコンサートは三密回避のため取りやめ、展示を中心とした文化祭としました。

教室、サークルの皆さん、コミセンの各専門部の皆さん、自治協会の理事の皆さんには数日前から、掃除、物品の移動などの会場準備や、展示、そして当日の運営にご協力いただきました。また、受付での来場者の方々の健康チェック・三密回避のための一方通行の実施などのコロナ対策を徹底していただき、素晴らしい文化祭にさせていただきました。厚くお礼申し上げます。

また、初日の土曜日には荘原小学校の錦織ほの香先生に、二日目の日曜日にはベトナムからお越しのジェムさんに、明るい挨拶を交わしながら受付のお手伝いをしていただき、より和やかな明るい雰囲気での受付になったと思います。ご協力ありがとうございました。

今年も規模を縮小した展示を中心とした文化祭でしたが、小学生や保育園児の子どもさん連れの若いお父さんお母さんの家族にたくさん来ていただき、和やかな落ち着いた雰囲気の文化祭となりました。

今年も二日間で昨年と同じ約900名もの皆様にご来場いただき文化祭を盛り上げていただきました。ありがとうございました。

また、文化祭の運営に関してご来場された方から貴重なご意見やご要望をいただきました。このご意見ご要望に沿えるよう早速に検討していききたいと思います。

来年度も素晴らしい文化祭になりますよう、今後も皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



10/12 (水) ぴかぴかになりました 荘原コミセン大掃除

荘原コミセンの教室・サークルのみなさんに文化祭前の大掃除をしていただきました。普段はなかなか手が行き届かないところまで大変丁寧に掃除をしていただき、きれいになったコミセンで文化祭を開催することができました。

みなさん、ありがとうございました。



共催研修で行った大森町での講演会の報告 「足元の宝を見つめて暮らしを楽しむ」

講師 石見銀山生活文化研究所 所長 松場 登美



去る10月27日専門部の研修として「やまももの会」との合同で松場登美さんの講演を石見銀山生活文化研究所本社の茅葺家の「畚舎(ひなや)」で実施しました。紙面の関係で内容の趣旨一部しか報告できないことが残念です。「生き方こそ大事 73歳 9人の孫」この言葉と表題に松場さんが大森町で刻んできた歴史があると思います。73歳とは思えない凛とした姿勢で、パワフルな講演会でした。それは聞き手に対する最初の投げかけ「人生は一回しかない。自分という人間は自分一人しかいない。一人ひとり何かの役割を持って生まれてきた。その役割を果たすことが自分の人生。自分の人生が利益追求ではもったいない。一人ひとりの人生は地域のため」に表れています。

10/27 (木) コミセン運営委員会・専門部・やまももの会 と共催で研修を開催しました



午前中は新しくなった「出雲エネルギーセンター」を訪見し、ごみの焼却の過程を見学しました。環境にやさしくするためにいろいろな工夫がされていましたが、私たち一人ひとりになるべくごみを出さないように工夫すべきだと学びました。



午後は大田市大森町へ行き、瀬石見銀山生活文化研究所 所長 松場登美さんの講演を聴講しました。大変力強い講演で、一人ひとりの活性化が地域全体の活性化につながる話を聞き、勇気づけられました。講演のあとは、ボランティアガイドさんによる説明を聞きながら、大森の町を散策しました。大変充実した研修となりました。

1班 9/13 (火)
2班 9/15 (木)
3班 9/16 (金)

思いやりを大切に 人権・同和教育研修会

ふれあいサロン おいでませの会



「ふれあいサロンおいでませの会」では、年間活動計画に毎年人権・同和教育研修会を取り入れています。

今年も出雲市人権同和政策課から同和教育啓発指導員のみなさんに来ていただき、DVD「秋桜の咲く日」を視聴後、主人公の発達障がいのある青年と彼を取り巻く人々とのやり取りを振り返りながら、お話をしていただきました。

その中で、発達障がいのある人を理解して温かく受け止めていくことが大切であり、そのためには地域ぐるみで学び、気づき、考え、行動することが大切だと教えていただきました。



1班 10/11 (火)
2班 10/20 (木)
3班 10/28 (金)

庄原幼稚園 東部保育園 井原保育園

幼稚園・保育園児さんから たくさんの元気をもらいました!



10月の「おいでませの会」は、幼稚園・保育園の園児さんと交流しました。

コロナ禍で肩たたきや手をつなぐなどの直接的なふれあいはできませんが、各園とも「よさこい」を踊ったり「歌」を歌ったり「竹太鼓」をたたいたり「竹馬」にのったりするなど精一杯の姿を見せていただきました。

子どもたちから「今日はありがとうございました。いつまでもお元気で過ごしてください。」と言われて涙ぐんでおられる参加者の方もいらっしゃいました。

世代を超えて温かい交流ができました。



地域小サロン 幸町サロン

10/4 (火)

美しい大正琴の音色が響きわたりました 大正琴A教室のみなさんによる演奏会



10月の「幸町サロン」は、庄原コミセンの「大正琴A教室(白梅会)」のみなさんに大正琴の演奏をしていただきました。「荒城の月」「上を向いて歩こう」「瀬戸の花嫁」などおなじみの曲が続き、アンコールの「ふるさと」は参加者全員で歌いました。楽しいこと、心が豊かになることを求めているサロンのみなさんと、コロナで福祉施設や庄原コミセンの文化祭などでの発表の場が減ったことで発表の場を求めておられる大正琴教室のみなさんの思いが伝わり、お互いにとって良い時間となりました。



以下 簡略ながらまとめさせていただきます。

40年前、鹿嶋の町(大森町)に嫁いで来た時から何かわからないが大森が好きだった。また親戚筋からは「草の種は、たとえ落ちたのが石の上でも根を下ろさなければならない。」という言葉が贈られた。「根をおろせば自分の人生こう生きると何でもできる。授かったら感謝しかない。努力しかない。疲れた時の山頂は元気になる場所でした。」

消費は未来への投資。アパレルは現在第2の環境破壊81.9万トン輸入し、51.2万トン廃棄(日本での製造を含め)、輸入先の外国で低賃金で働いている労働者の成果すら意識せず捨ててしまう。ではどういった暮らし方をするか。それが「群言堂」の長く愛されることを目指したもの作りの基本となっています。今は大変革期。未来に対してどんな投資をしているのか。

自転車の前輪が経済、後輪が文化、比率は49対51、ハンドルが経営。眼もつぎはぎを重ねながら最後は雑巾で終わるという日本には「ぼろ」という文化があった。その意味で日本には元々SDGs

の世界があった。経済優先が地域の特色をなくし、結果地域の文化、経済性も無くす。その対比としての、その地に息づいている文化を大切にしたい「非効率」、古民家再生ではその家で暮らしてきた人たちの歴史を受け継ぎ、家の価値を現代に生かす「復興創新」。それらの文化的な豊かさが新たな経済を呼ぶ。

時間の蓄積こそ財産。知恵と感性は人間にしかない。その地の何を生かすのか。文化では世界に負けないものがある。その文化を確かめに大森町には世界のいろんなところから人が来る。国際会議も開催される。人生は出会った人の関係性の総和である。たった一度の人生自分のやりたいことをやらないというのはどうか。ただ未来にとってそれが意味のあることが大事。この地に向き合う真剣さが今の自分をつくってくれた。

庄原コミセン総務部 森脇 孝充

10/29
(土)

リレー講座

「私たちの荘原」のルーツをたどる 『荒神谷青銅器の謎』

自主企画事業

講師

県立古代出雲歴史博物館
専門学芸員 増田 浩太 さん

荒神谷遺跡から出土した青銅器。史上空前の大発見から約40年。鑄造された当時、黄金色に輝く銅剣や銅鐸はどれほど美しく、古代の人々を魅了したことでしょう。『リレー講座「私たちの荘原」のルーツをたどる』では、荒神谷青銅器の最新研究を披露していただきました。講師は県立古代出雲歴史博物館の専門学芸員・増田浩太さんです。

弥生時代が下るにつれて、青銅器は種類が増えて、形も派手に大きくなっていきます。一方で銅剣や銅矛は戦艦という実用から祭器と変わります。増田さんは顕微鏡を使った独自の研究法で、荒神谷青銅器のすべてを分析されました。そこから、精巧な鑄造が可能な砂の鑄型ではなくて、石の鑄型だったことがわかり、しかも製造時に鑄型の合わせ目がズレたり、研がずにそのままとなっていることも多いようです。荒神谷青銅器の製品としての質は低く、雑なつくりだということです。見た目だけ整ってればよし、としたのですね。

加茂岩倉遺跡については、増田さんは秘話を披露されました。大きな銅鐸の中に小銅鐸が入り子状になっていたわけですが、出土総数は39個。数が合いません。大が20個、小が19個です。大きい方にはすべてに小があった土砂の跡があるといえますから、小も20個なくてはならないはずですよ。

農道工事の現場から加茂町教育委員会(雲南市合併前)に発見の連絡が入ったのが金曜日の夕方、担当者が現場確認したのが月曜日。土日の二日間銅鐸は工事現場に放っておかれました。そのときに誰かが持ち去った可能性が高いと増田さんはおっしゃいました。機会があるたびに、名乗り出なくていいから歴博の入口に「ごめんなさい」と置き手紙をして、そっと銅鐸を置いてくれていたらうれしい、と。一同大笑でしたが、消えた銅鐸が「発見」されたらいいですね。

研究の手法は進歩しているそうです。青銅は銅とスズに鉛を加えますので、鉛の同位体比と成分分析で朝鮮半島系の鉛か、大陸系の鉛かがわかるといいます。さらに三次元計測データを使うと、鑄型が同じかどうかで製造地域も判明するとのことでした。



荒神谷青銅器は祭祀のために使い込まれた形跡はなく、製造から埋められるまでは短かったということで、なぜ埋めなければならなかったのか。大きな気象災害や気候が変動していったのか、青銅器の役割や持つ力が変わり頼りにされなくなった、一大事が起こったのかもしれない、真実はわからないけれど時代が変遷する境目にあったのだらうと締めくくられました。古代から続く悠久のロマン…荒神谷遺跡に立って想像を巡らすのも楽しかろうと思います。



10/20
(木)

スタンダードバラ台木の挿し木講座

講師 福島 博 さん

しょう ばら Showバラの会

10月20日(木)、福島博さんを講師に、スタンダードバラ台木の挿し木講座が行われました。ノイバラを採取するところから始まり、いくつかの手順を経た上、荘原コミセンの周りのバラの台木とします。来年2月には、新たなバラを植える作業と追肥、冬剪定を行う予定です。バラの栽培にご興味をお持ちの方はぜひ参加してみてくださいね。

10/30
(日)

みんなできれいな町づくり 荘原・出東一斉クリーン大作戦

出雲市環境保全連合会荘原支部



10月30日(日)秋晴れの爽やかな朝、荘原地区、出東地区が一丸となって「クリーン大作戦」を行いました。これは、出雲市が実施している「出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦」の活動として、斐川東中校区の荘原・出東地区が行うもので、今年で9回目となります。斐川東中学校の生徒さんの中には、部活の時間帯と重なって参加できないからと、前日にごみを拾ってくださった方がいらっしゃいました。また、当日には、小学生だけでなく、未就学の子ども達も参加してくれました。地域で大人も子ども一丸となって町をきれいにしようというこの作戦が功を奏したのでしょうか。今年のごみは昨年の半量ほどになりました。

9/27
(火)

わたしたちも使えます！ スマホ教室

「やまももの会」総務部

様々な便利な機能が詰まったスマホの機能をきちんと学んで使えるようになることを目的としてスマホ教室を開催し、22名の参加がありました。

ソフトバンクから下田貴博さん、細田和樹さんにきていただき、地図アプリの見方、QRコードの読み取り方などスマホ初心者でもわかりやすいように丁寧に教えていただきました。



参加者の感想

スマホは4〜5年前くらいから使用していましたが、改めて初めにスマホ教室に参加しました。何がわからなくて何を聞いていいのかわからない利用法に、一から親切にわかりやすく教えていただきました。基本的な操作の仕方を確認できていろいろなアプリの使い方がわかりました。



写真でたどる荘原 Vol.3

あの日あの時～そして現在

まちづくり部

明治5年(1872)10月14日、日本初の鉄道が新橋・横浜間に開業して、今年で150年を迎えました。荘原まで開通したのは、明治43年6月でしたので、今年が開通112年となりました。加えて今年は、山陰初の鉄道が開業し、山陰鉄道120年目。また、特急やくも号運行開始50周年、電化40周年に当たり、鉄道メモリアルイヤーです。この間様々な時代背景と共に地域の進展に大切な路線として機能を果たしてきました。老朽化に伴いJR荘原駅は、令和2年(2020)3月末に新駅舎が竣工し、近隣に類を見ない素晴らしい駅舎が誕生しました。地元の新たな拠点として機能することが期待されています。



▲開業時の荘原駅(明治43年6月)



▲解体前の駅舎(平成31年4月)
斐川町シルバー人材センター
事務所がここにありました。



▲新駅舎竣工(令和2年3月)

荘原コミュニティセンター「まちづくり部」では、引き続き皆様から懐かしい荘原の写真などの歴史資料を募集しています。ご自宅に懐かしい写真などありましたら、荘原コミュニティセンターまでご持参ください。

Merry Christmas



クリスマス会のご案内

荘原コミュニティセンター女性クラブ「やまももの会」

コロナ対策のため会員限定で開催していた「喫茶やまもも」ですが、今回はどなたでも来場いただけるクリスマス会です! みなさま、お誘いあわせのうえ、お越しください。

- 日時 12月3日(土)10:00~11:30
- 会場 荘原コミュニティセンター 集会室
- メニュー ぜんざい、コーヒー、他 喫茶代 500円
- お楽しみ 検温・マスク着用でご来場ください
体調の悪い方は参加をご遠慮ください

同時開催

フードバンク開催します!

家庭で余った食品を集めて寄附をします。
余った食品等ありましたら当日持ってきてください。

— お寄せいただきたい食品・日用品 —

缶詰、インスタント食品(ラーメン等)、レトルト食品、米(精米済み歓迎)、
飲料、菓子、洗剤、マスク、ティッシュ、トイレトペーパー等

*食品は、常温保存、未開封、賞味期限の記載がある(賞味期限が2か月以上)物に限ります。



年末年始の利用について

荘原コミュニティセンター

12月29日(木)から1月3日(火)まで
一般業務、貸館業務はお休みします。

リサイクルステーション

12月31日(土)から1月1日(日)まで
ご利用できません。

ご寄付御礼

香典返し 金一封

皆尾 一則様(北本町自治会)
本常 幸雄様(大倉自治会)
金森 孝志様(羽根西自治会)
錦織 鐵夫様(北田波自治会)
橋本 祐治様(羽根東自治会)
池淵 登美子様(新生町自治会)
飯塚 正明様(栄町自治会)
樋野 幸孝様(信和町自治会)

皆様からお寄せいただきましたお志は、
荘原地区内の社会福祉事業に活用されて
いたしております。誠にありがとうございます。
ご寄付は随時、荘原コミュニティ
センターで受け付けております。